

足立区地域保健福祉推進協議会

第4回地域保健福祉計画策定部会 会議録

開催日時: 令和5年7月24日(月)午後6時30分～8時30分

開催場所: 足立区役所中央館8階 特別会議室

開催方法: 対面とwebの併用

1 部会長挨拶

2 報告

(1) 第3回計画策定部会での意見について《事務局から報告》

(2) 庁内作業部会の作業進捗について《事務局から報告》

3 議事事項

(1) 本計画の基本理念・基本方針を含む計画構成案について《事務局から説明》

【委員】基本理念(案)の「つながり・認め・支えあう」について、それぞれ「あう」は省略しなくてもよいのではないか。基本理念②の育める「足立区」ということだが、子どもが生き抜く力が必要だ。

→(部会長)庁内作業部会に持ち帰り検討していただきたい。

【委員】基本方針④は非常に大切なことである。病気・貧困・虐待・精神障がいなど複雑な問題がある。他職種で地域の方と連携でき、区の役割が必ず入った体制で考えてもらいたい。

【委員】計画案第5章の施策④:地域団体・居場所は、区内にたくさんある。そういった方々の自主性を妨げない形で強力に支援すること。また、そこから出てくる福祉的ニーズを区で施策に昇華させていくなど、行政としての視点を持って関わってほしい。

計画案第6章の重層的支援・断らない体制が重要。相談窓口は、委託ではなく区で実施すべきと考える。そういったことを計画に盛り込んでもらいたい。

→(事務局)現在、重層的支援実施に向けて福祉部で組織改正・体制を検討している。誰が来ても断らず相談を受け止め、色々なところにつないでいく。2つ目、相談について委託は考えていない。検討段階ではあるが、区で実行する予定である。財政的支援はここに盛り込むことは考えていない。福祉的ニーズについては網羅させてもらいたい。

【委員】財政的支援は別の部署になると思うが、区民が相談に来た時にきちんと受け止められる体制は必要である。ぜひ実行してもらいたい。

→(部会長)区が責任を持つてというのは大切だと思う。一方で、制度の狭間の問題について、他自治体では社会福祉協議会で専門職を配置しているところもある。一緒に活動していくことも大事である。民間支援は社会福祉協議会の役割だが、区として社会福祉協議会を通して支援している、やっていることを表現・工夫できるとよい。

【委員】基本理念について、せっかく謳うのであればもっとインパクトのあるフレーズにすべき。「あんしんのまち」では、安易で陳腐な感じ。もっと明確に出るようないい言葉ないか。例えば「結びつき」「心豊か」「あたたかな」など、再考されてはどうか。

→(部会長)事務局で受け止めてご検討いただければと思うがどうか。

→(事務局)今一度考えてみたい。庁内作業部会でも検討していきたい。

【委員】計画を実行するのは区民であり我々である。区民が意識を変えないとだめだ。障がい者とのつながりを持ちたくても、コミュニケーションをとる場所・機会がない。知り合わないことにはつながりも何もできない。色々な団体と繋がれるような計画になればいいと思う。

→(事務局)意識改革は、皆さまだけではなく区職員も同じだと考えている。職員の意識も変えていきたい。皆さまに相談しながら体制を作っていきたい。障がい者とのつながりは、他の委員にもご意見を聞きたいがどうか。

【委員】障がい者が町に出ていくことに躊躇する環境がある。自然と受け入れてもらえる周りからの理解があると、出ていける人も増えるように思う。具体的に何かあるわけではないが、地域交流的な企画にも取り組んでいきたい。

【委員】そういうときに、町会・自治会や老人クラブ等に話をもらえればよいと思う。障がいの方のアート展等も、みんなと一緒にやるような作品展があってもいいのではないか。以前に、障がい関係部署に別の会議で伝え、検討するという返事だったが、何も言ってこない。

→(部会長)どこで知り合うことができるかは大事な意見である。一つの例として災害時の避難訓練があり、これに障がいを持った方がどのくらい参加できているかが大事である。既存の取組みを通してのつながりも考えてもらえるとうい。防災部局とも連携をとってもらえるとよい。

【部会長】計画案第5章:施策⑤が新しいため、それを冒頭に持ってきてよいのではないか。庁内作業部会でも検討いただければと思う。また、国では国土交通省の住宅部局が入って、住宅確保要配慮者に対する居住支援機能等のあり方に関する検討会が開催された。住み替えた後に地域で孤立しない、孤立を防いでいくことは大事になるので、住宅確保ではなく住まい確保の支援、居住支援の充実みたいにした方がよいか。こども庁内作業部会で検討してみしてほしい。

(2)アンケート結果速報値《事務局から説明》

【委員】アンケート結果を見た感想であるが、7ページ(地域福祉に携わる方)、12ページ(その他一般区民)で差が出ているもの・出てないものがあり面白い。地域福祉に携わる方が、地域に関わる問題を多く答えている。逆に、一般の人で回答が多いのはゴミ屋敷である。注目すべきは逆で、どちらもあまり伸びていないところで、ヤングケアラー・ダブルケア・虐待である。外から把握しづらい・専門家が少ないということもあるかもしれない。8ページ②「少ない」と書いてしまうと間違ったメッセージになる可能性があるため、数字が少ないから問題ないではなく、こういう人がいるということが大事だと思う。

→(事務局)アンケート報告をまとめる際に気をつける。

【委員】アンケート結果の9ページ、連携していきたい団体や専門職について、地域包括支援センターが非常に高い。今後の発展に期待でき、そこを重点的に活用していくこと示す結果かとも思った。

→(部会長)事務局にてクロス集計してもらえるとよい。誰がどこの連携求めているのかを把握するためにも、ぜひお願いしたい。

【委員】ヤングケアラー・ダブルケア・虐待は、義務教育にも影響するところと考える。今後も、丁寧に調査を進めてもらえればと思う。今後、連携が構築されること期待している。

→(事務局)結果をまとめたら報告・広く共有していく。

【委員】教育委員会と福祉部門の連携が重要かと思う。今回、子ども家庭部が入っているが、スクールソーシャルワーカーとの連携も必要である。学校現場と福祉の連携が大切であり、今後どう強めていくか大きな課題だと思う。

【委員】過去の部会で、アンケートの実施先に小学校・中学校をなぜ入れないかという質問をした。外から見えないくらい対象の児童が多く、そこを拾っていかないといけない。学校に入ってみて初めて分かることが多くある。見えない数値が出るようなアンケート、調査結果を出してもらえるとありがたい。

→(部会長)結果や数値だけではなく、大事なところや意見を見落とされないようにまとめてほしい。

【委員】アンケート結果14ページ、地域包括支援センターが多いが、自分もそう感じている。在宅現場も重層的な課題が多い。これだけ認知度・期待度がありながら、体制が十分かをきちんと議論する必要がある。ワンストップも重要だと思うが、地域で対応できる受け皿の検討も同時に必要だと感じた。

→(事務局)これを構築しながら、徐々にと思っている。一つひとつ紐解きながら、変えていきたい。

→(部会長)小地域ごとのプラットフォーム、地域の方が集まってどんなことができるかを話し合う場も大切である。既存の団体に頑張ってもらうだけではなく、新しい仕組み含めて検討できればいいのではないか。

【委員】地域包括支援センターなど、鹿浜地区のケアマネジャーは非常に頑張っている。この動きをもっと色々な形で利用できればよい。

【委員】アンケートの有効回答率が低いと個人的に思っている。今回のアンケート以外にも取り直したりして、回答率を高めていく考えはあるのか。

→(事務局)追加は予定しておらず、計画を作る一つの要素として、今回のアンケートを分析・使用する。アンケートのほかにも、地域懇談会やパブリックコメントを実施予定である。

【委員】アンケートの質問1番の活動されている区域・地域ごとの問題を、今後まとめていく考えはあるか。

→(事務局)クロス集計・分析の中で示していく。

【委員】地域包括センター、地域が多くなっているが、連携が必要。どんどん交流が必要だと思う。10ページ、民生・児童委員の割合が少ない。そういうところと情報共有しないと助かる命も助からない。

→(部会長)特に連携・強化ということでは、クロス集計して具体的な取り組みにつなげていける分析出せたらと思う。

【委員】民生・児童委員が、みなさんの中にとどのくらい浸透しているかが今後の課題だと思う。PR 週間などで周知しているが、困ったことを民生・児童委員に相談しようという周知を頑張っていきたい。

【委員】こどもやひきこもりの事案が入ってくると、その都度どこに相談すればよいのか悩んでしまう。65歳

以上が地域包括支援センターに相談は分かりやすいが、受け皿の場所が明確にわかるとよいと感じている。

→(事務局)重層的な支援体制、まるごとなんでも相談を受けとめる組織体制を考えていく。

(3)地域懇談会実施詳細《事務局から説明》

【委員】参加者は先着順ということだが、広く意見を聞くということでは年代も大事ではないか。何歳以上の参加募集と考えているか。地域特性、どこに出てもいいという声もあると思うがどうか。

→(事務局)年齢制限は設ける予定はない。どこの懇談会に出ても構わない。どのようなところでどのような結果かわからない、やってみないと分からないところもある。年齢制限を設けるのは難しい部分もあるが、やりながら考えさせてもらいたい。

【委員】定員に満たない場合も開催するのか。

→(事務局)満たなくても開催する。来ないから誰かをということは考えていない。状況見て判断する。

【委員】アンケートを回答いただいた方にも声をかけていただけるとよいのでは。

4 意見交換・その他

【委員】区として連携・強化が重要だと思う。若い方にどれだけ認知してもらえるかも一つと思う。知ってもらえるような体制づくりが必要だ。

【委員】ヤングケアラー・ダブルケアの数字が低いのは気になっている。認識がまだまだ浸透してないのかと思った。アンケートをするときにどういう聞き方をしていたのか。一般の方には浸透していない言葉も。一般の方も答えやすい設問にすべきだ。

→(部会長)調査結果にはアンケート用紙も一緒につけてもらえるとよい。

【委員】よほど覚悟決めないと、計画は実行に移らない。策定後、いかに実行していくか。その熱意を持ってもらいたい。

【委員】40年前と比べると、地域には様々な担い手がいる。地域懇談会も新たに実施していく。よい計画でできるのではと、私はポジティブに考えている。地域懇談会にはどんな話出るか期待したい。

【委員】これまで行政だけで対応できなかったことが、アンケートでも見えてきている。地域の方に理解いただきながら、解決方法を考えていきたい。計画ができた以降の地域づくりが肝になる。

【委員】計画が実行できるような具体的な案を作っていきたい。